

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3290100266		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・西川津①		
所在地	〒690-0823 島根県松江市西川津町2663番地2		
自己評価作成日	平成27年10月8日	評価結果市町村受理日	平成28年2月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kai gokensaku.jp">https://www.kai gokensaku.jp</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	平成27年11月17日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>①利用者に居心地の良い空間を提供できるように、常に利用者の心の声に耳を傾けるように努めている。家庭的な雰囲気の中で、利用者が家族の一員としての役割や楽しみを持って生活できるように支援している。</p> <p>②社会資源を活用し、住み慣れた地域で馴染みの人達との交流を大切にしている。また、地域との関係作りに取り組んでいる。</p> <p>③環境が与えるストレスの軽減のため、日々の買い物や利用者の希望に沿っての外出支援に取り組んでいる。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>中心市街地にほど近く、幹線道路から少し入った静かな住宅地の中にある。開発途上地域の為、昔からの地域に新しい住民が加わり新たな地域コミュニティを築きつつあるように見受けられる。そのため近隣との関係作りには苦慮している様子が伺えるが、隣にある障害児通所支援施設との交流を持つことで、行事や防災面での協力体制に繋がるよう取り組んでいる。2つのグループホームが左右対称に位置しているも、それぞれが独自に考え事業が進められている。運営推進会議や防災への取り組みなど協力して行われていることもあるが、内部での職員交流を深めること等で、双方の利点がより生かせるよう取り組んでいただきたい。職員体制が不十分な時期もあったようだが、管理者を中心にチームワーク良くまとまってきたことから、今後の取り組みに期待したい。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々、理念を念頭に介護の提供を心掛けている。また、家庭的な環境により近づけるように職員と管理者は実践につなげる努力をしている。	利用者で習字の得意な方があり理念を大きく書き、ホールの目につきやすい場所に貼り出し常時目にするようにしている。新人研修で取り上げたり、毎日のミーティングの中でも取り上げ共有できるようしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出時など、近隣の方々への挨拶を心掛けている。また、公民館との関わりを持ち、行事に参加したりボランティアの方々を招いたりしている。	すぐ隣に障害児の通所支援施設があり、敬老会に招待したり、音楽会を開催したり、ハロウィンには飾り付けをして子ども達の訪問を受けたりと交流を深めている。歌や話し合い手、手遊びなど、夏祭りには高校生のボランティアも受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の様々な研修に参加し、認知症ケアの啓発に努めている。また、運営推進会議にて事例をあげながら、話し合いの場を持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、参加されたご家族や地域の方々に普段の様子や取り組み状況を伝えている。また、その場で出た意見や助言などをサービス向上のために活用している。	2か月に1回2つのグループホームが順番に主催する形で実施している。利用者、家族、民生委員などの地域代表者、市職員や包括の職員の参加があり、利用者の様子、行事や職員研修の報告などを伝え、関係者から意見を得るようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月ごとの運営推進会議に参加していたり、ホームでの取り組み状況やホームでの困難事例があれば相談し、意見や助言を頂いている。	運営推進会議に参加があり、日頃から交流を持つようにしている。利用者の紹介をお願いしたり、いろいろな相談を持ちかけたりという関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止対策の社内マニュアルを年2回内部研修として行い、毎月の職員会議では身体拘束について話し合いの場を持ち、日頃のケアについての振り返りを行っている。	花を見に出かけることもあり、外に出ることを妨げないように玄関は施錠していない。施設内研修を行ったり、具体的な事例をあげて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	社外研修を通じて職員の共通認識を図ると共に、虐待防止を徹底するよう努めている。また、職員同士の気づきを毎月の職員会議で話し合い、確認しながら支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修に参加した職員が伝達研修を行い、職員間の共通認識を深めている。また、制度の利用が必要と思われる場合は、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書や重要事項説明書に沿って丁寧な説明を行っている。その際には、契約の解除や起こり得るリスクについても対応方針を含め説明を行い、理解を得た上で契約していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプラン作成時に意見を聞き、日々のケアに反映できるように努めている。また、年1回無記名の家族アンケートを実施し、意見や要望を伺っている。	年1回は家族アンケートを実施しており、提出された意見を基に改善に繋げるようにしている。家族会や面会時、また毎月の便り等、いろいろな機会で見聞を得ることとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングや職員会議などで、職員の意見や要望を聴く場を設け、それらを運営に反映させている。	虐待防止月の2月8月に個人面談を実施し意見を聞くようにしている。管理者は働きやすい職場作りを意識しており、休みが取りやすしたり、急な休みの対応もできるように体制作りにも配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の資格取得のための支援を行い、取得後は職場内で活かせるように配慮している。また、職員同士が自由に意見を言い合える環境整備にも配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や能力に応じ、外部の研修受講の機会を確保するようにしている。また、定期的に内部研修を行い、知識と技術の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会や研修を通じて、同業者との情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談にて、利用様の生活状況の把握と困っている事や不安な事に耳を傾け、本人の環境の変化に対する不安感を軽減するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が抱えている不安や悩みを可能な限り理解し、どのような支援が最適かを共に考えていけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームは入居相談の窓口であり、来所時には本人や家族の相談に応じて、最適なサービスを考え、必要に応じて他のサービスも受けられるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年長者としての利用者の経験や力を教えとし、日々の生活の中で活かしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や来所時に普段の様子を伝え、家族の思いにも配慮しながら共に考えていける関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院や自宅への一時帰省、親戚などの面会など、本人が大切にしてきた関係性を継続できるように支援している。	定期的に面会に来る方がいるため、利用者とゆっくりできるように気を付けたり、知り合いの方が亡くなった場合などお悔みに同行するなど、今までの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性については常に職員間で情報を共有し、食事やお茶の時などの席に配慮している。そうした中で、何気ない日常会話や利用者同士の助け合いの場面が見られる事がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ生活の場を移される場合でも、必要に応じて相談や支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いに耳を傾け、職員間で情報を共有している。表明が困難な方の場合は、表情などで本人の思いを察し、本人主体に検討している。	介護度が4, 5の方、車いす対応の方と重度化してきており、声掛けには答えられるが、思いを伝えることが難しくなってきた方が増えている。日頃の関わりの中で表情から感じ取ったり、家族の方から聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報収集と入居後の本人・家族との会話を元にこれまでの暮らしを把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの体調の把握や本人の有する力を観察し、職員間で共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の思いや要望を聴き、日々のミーティングやカンファレンスで話し合い、本人主体のプラン作成を心掛けている。	個別記録ををまとめる形で月1回モニタリングを実施している。担当者会議に出席出来ない家族には事前に電話等で意見を聞き、関係者で会議を開催しプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態変化は個別記録に詳細に記入している。日々のミーティングにて情報を共有しながら、気づきや提案など話し合いを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、臨機応変なサービス提供ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	知人の面会や行きつけの美容院など昔馴染みの関係性を保ち、安心して暮らせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医での必要時の受診支援と月2回の往診時に状態報告を行っている。	かかりつけ医の往診が月に2回、訪問看護の利用も月に2回あり、緊急時や夜間の対応も可能になっている。精神科の受診の場合も職員が同行しており、様子を伝え指示を得るようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護センターとの契約に基づき、月2回の訪問時に健康状態を報告し、健康管理や医療面での助言を受け対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換は常日頃からしており、入院時には病院関係者と常に相談できる関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については、入所時に説明を行い、本人や家族の納得を得るようにしている。状況に応じて、主治医・家族との話し合いの場を持つように努めている。	重度化に向けて段階を追って関係者を交えて話し合いの機会を持つようにしている。常時医療面の対応が困難なことや、職員の対応も不十分なこともあり積極的に取り組んではいないが必要性は感じており、研修等に取り組んでいる。	幅広い研修を行う事で職員個々のレベルアップがなされるよう期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署や応急手当普及員による研修や急変時・事故防止対策等の研修を定期的に行い、スムーズに職員間の連携が取れるように話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回は消防署指導による避難訓練を実施し、他1回は各ユニットごとに利用者を含めた訓練を実施している。	昼間、夜間の火災を想定して消防署の協力も得て訓練を実施している。住宅地で日中は近隣の協力は難しいこともあり、隣の障害児通所支援施設に声掛けし協力関係を築くように働きかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの思いや希望を大切に、その時々状況に合った支援を行うように心掛けている。自分の意思を言葉で表示する事ができない方にも表情等から真意を察し、さりげなく働きかけるように心掛けている。	権利擁護を踏まえ内部研修で取り上げている。日頃のケアの中で気付く場合はその都度注意するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から本人の希望や思いを話しやすい関係作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり、日々の体調や状況に配慮し、できるだけ自分のペースで生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院がある方は、馴染みの美容院に行く事で、その人らしい身だしなみやおしゃれを楽しんでいただくように支援している。行きつけが無い方は定期的に移動美容をお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の買い物に同行していただき、旬の食材での献立を考えたり、ホームで収穫した新鮮な野菜を使い、毎日の食事作りを一緒に行っている。	メニューは作成しているが、畑で作っている野菜を利用したり、冷蔵庫にある食材を用いたりして3食作っている。下準備や盛り付け片づけなど利用者と一緒に作業するようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や栄養バランスに配慮した食事の提供を心掛けている。摂食・嚥下障害のある方にも食形態や姿勢など、状況に応じて検討し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせて、毎食後の口腔ケアを行い、必要に応じて職員が介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握すると共に、プライバシーにも配慮し必要以上に介入しないよに支援している。	ほぼ自立している方が3名、オムツ使用者もあるが、多くは紙パンツにパットを併用している。尿意のない方も多い為、排泄パターンを把握して声がけ誘導するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事量や水分量を把握し、個々の排便習慣に応じての飲食物の工夫や運動への働きかけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの状態に応じてシャワー浴で対応せざるを得ない場合もあるが、できる限り利用者の意向に沿った支援を心掛けている。また、季節に応じてゆず湯や菖蒲湯を楽しんでいただいている。	週2回は入浴するようにしているが、好きでない方も多いため無理強いせず、利用者の意向に合わせている。重度で湯船に入れない場合は2人対応でシャワー浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡が日課の方やその日の体調によって、休息の時間も取り入れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の用法や用量を理解し、服薬の支援と服薬後の状態を観察し、変化があれば主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、本人のできる力を活かした役割作り、楽しみや気分転換等の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の買い物やドライブ、散歩等外出の機会を持つように努めている。また、嗜好品購入の希望時に外出支援を行っている。	毎日の買い物には声がけて外出の機会が増えるようにしている。衣類の入れ替えに家に帰りたいとか、帰省を希望する場合も職員が同行している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる一部の方が所持はしているが、希望商品の購入等はホームで立て替えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の希望時に対応している。手紙のやり取りはできていないが、毎月のお便りに本人が記入する欄を設け、一言メッセージを書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、季節ごとに飾り付けをして、季節感を味わえるようにしている。また、居心地良く過ごせるように室温調整や光の入り具合等配慮している。	幹線道路から少しはなれており、住宅地でもあり静かである。中庭の花や野菜を眺めることができ、季節感も味わえる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で、利用者が自由に過ごせるように畳のスペースや廊下の奥にソファを配置し、他者から離れたところでゆったり過ごされる方もいる。また、玄関先や庭など自由に出入りできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたタンスやテレビ等を持ち込んでいただき、本人の好みに合わせた飾り付けをするなど、居心地のよい環境作りに配慮している。	家族写真や思い出のある物を並べ、自分1人の空間としてくつろげるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の各所には手すりが設置しており安全に配慮している。また、必要な表示物は分かりやすく、利用者が認識しやすいように工夫している。		